

NPO法人 京都DARC (ダルク)

●目的

覚せい剤や大麻など薬物の依存症になっている人たちのリハビリテーションセンター。薬物依存症からの回復と社会復帰への支援を続けています。

●設立

ダルクは全国で70か所ほどあります。京都ダルクは平成15年8月オープン。平成12年頃から大阪ダルクのスタッフとして活動してきた加藤武士さんらの働きかけで、京都のリハビリ・センターが誕生、この9年間で薬物依存症の約100人が利用しています。

●代表

加藤さんが施設長として現場を預かり、現在は常務理事を兼ねています。(代表理事は塚本誠一さん)



●わたしたちの活動

薬物依存症は糖尿病や高血圧症と似ていて完治困難な病気です。薬物ほか「合法ハーブ」「脱法ハーブ」も、とかく問題になっていますし、アルコール類も要注意です。薬物依存症の人が、これまで通りにお酒を飲み続けていると、自分自身をコントロール出来なくなり、無責任な行動に走る場合があります。また浪費癖が出たり、ギャンブルに夢中になったり、さまざまな症状に悩まされるのがとても心配です。



京都ダルクは11人のスタッフがいて、障害者自立支援法に基づき共同生活援助・介護事業、自立(生活)訓練など症状回復支援活動をしています。リハビリのプログラムは「ミーティング」を中心に、若者向きや家族向けのプログラムも実施しています。薬物乱用は犯罪ですが、病気でもあり、回復可

能と精力的

にメッセージを送っています。医療、行政、司法の各機関とも連携しながら個々の利用者の日常を見つめ、笑顔で話しかける加藤さんらの苦勞も大きい。



ダルクでよく使う言葉に「今日だけ」というのがあります。「今日だけは薬物を使わない」。これが毎日続けばと願う。クリンタイム(断薬期間)が長くなると、ペットボトル(覚せい剤を使う者には道具)の水を見ても覚せい剤を連想しなくなります。

京都ダルクの利用規定は厳しい。アルコールを含む薬物の施設内持ち込み、使用は厳禁。言葉も含む暴力は一切だめ。利用者同士の金銭の貸借、施設内の賭けごとなども、法度です。男性用のグループホーム施設に続いて、このほど女性4人用の施設が誕生し、利用が始まりました。

住所 〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町 6-1-2 サンリッチ西浦 1F

電話/FAX 075-645-7105